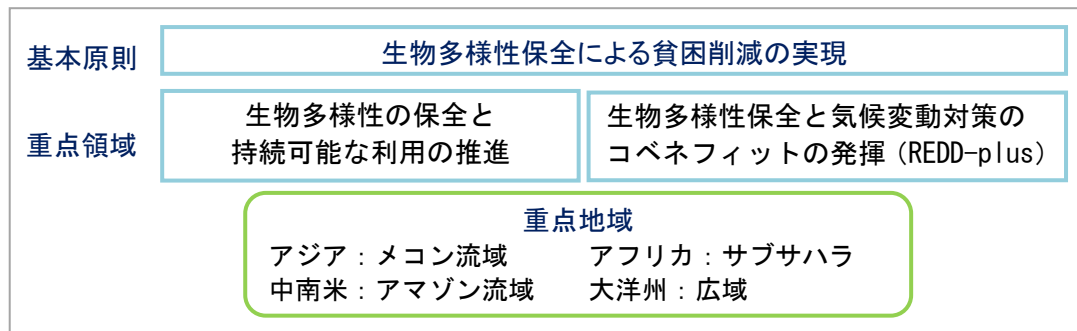


我が国のODA：JICAによる生物多様性関連の国際協力の例

- 生物多様性の保全等の地球環境保全は人類の共通の課題
- 豊かな生物多様性が多く残る途上国での取り組みが重要だが、制度・能力・資金等に課題
- 我が国はその能力を活かして国際貢献を積極的に推進する必要がある
- JICAは生物多様性保全による貧困削減の実現をめざし、プロジェクトを実施

JICAの生物多様性保全への取り組み方針

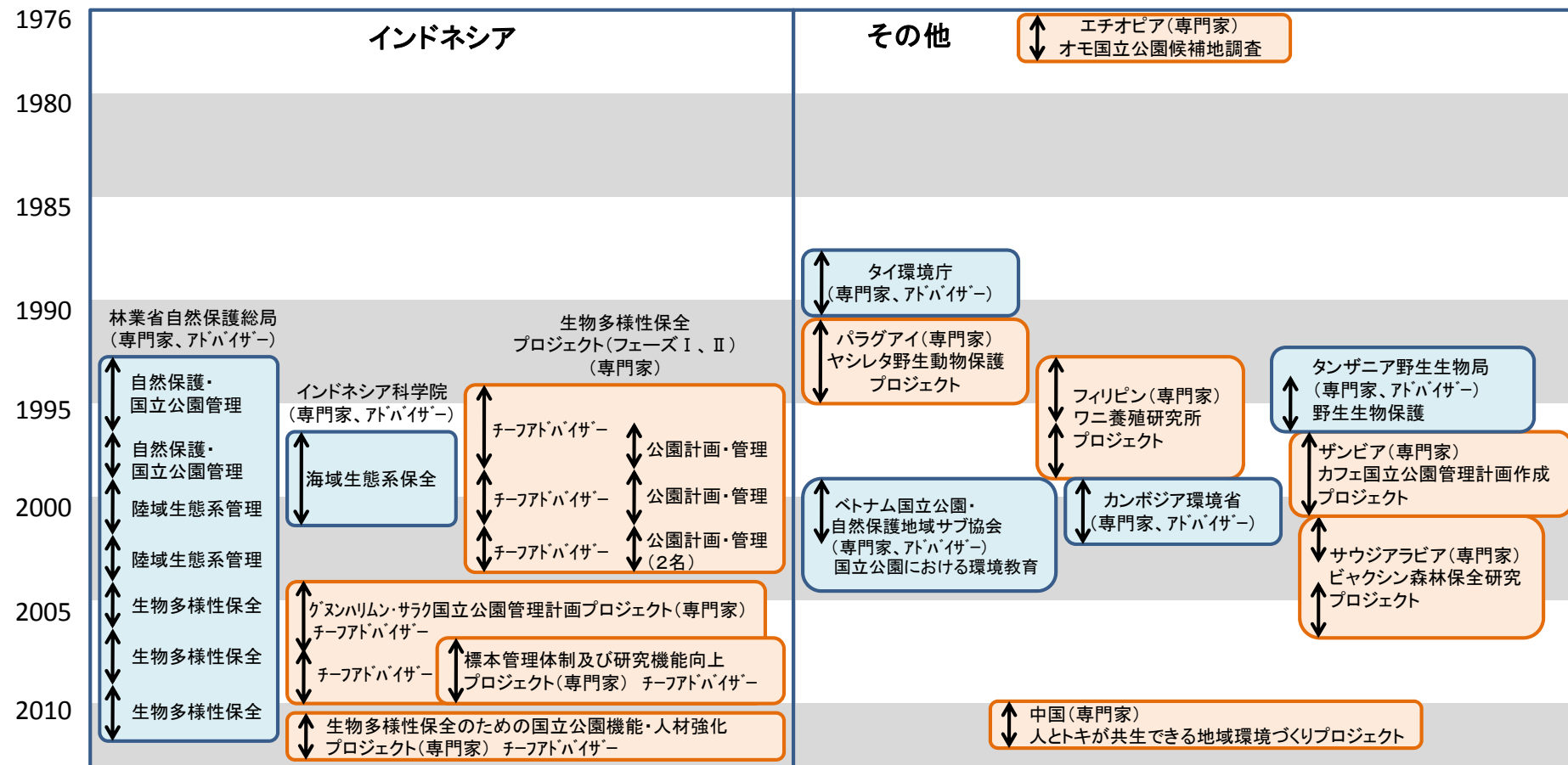


実績

【生物多様性分野における技術協力プロジェクト(2006～2010年)】

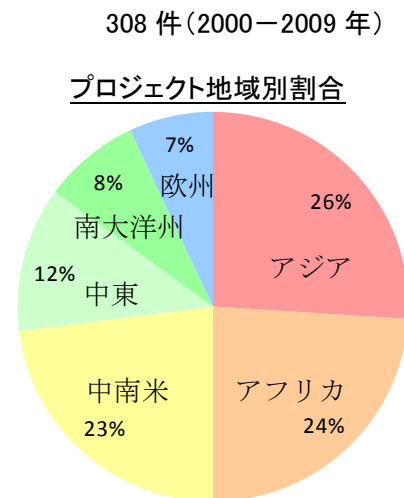
地域 プロジェクト数	生物多様性 政策・計画	湿地保全 渡り鳥保護	世界遺産 保護地域	海域 サンゴ礁	環境教育 その他
アジア 11	インドネシア・チビノン (標本管理・研究機能向上)	中国(人とトキの共生)	インドネシア・グヌン ハリムサラク(国立公園 管理計画)	インドネシア (地方マングローブ 保全)	ベトナム(国立公 園管理国内研修)
	インドネシア(森林 火災予防計画)	モンゴル (湿地生態系保全)	インドネシア(国立公 園機能・人材強化)	インドネシア(マン グローブ情報)	
	マレーシア・ボルネオ (生物多様性・生態系 保全)		ベトナム・ビズップヌ イバ(国立公園管理 能力強化)		
大洋州 3			サモア(国立公園管 理能力向上)	パラオ(サンゴ礁 モニタリング) パラオ(国際サンゴ 礁センター強化)	
中南米 11	アルゼンチン(生物多 様性情報システム)	メキシコ・ユカタン 半島 (沿岸湿地保全)	コスタリカ (野生生物保護区・ 住民参加型管理)	エクアドル・ガラパ ゴス諸島 (海洋環境保全)	アルゼンチン (レンジャー育成)
			パナマ・アスウェロ 半島(森林保護区・ 研究評価)		アルゼンチン・ イグアス (人材育成)
			アルゼンチン・ イグアス (自然環境保全)		アルゼンチン・ 第三国研修 (中南米自然保護 官育成)
			ブラジル・ジャラボン (生態系コリドー)		ブラジル・東部アマ ゾン (森林・環境教育)
アフリカ 1					ケニア(野生生物 保全教育)
中東・欧州 2		イラン・アンザリ 湿原(環境管理)	サウジアラビア (ジャクシン林保護)		
合計: 28	4	4	9	5	6

環境省職員のJICA専門家派遣の状況



【参考】

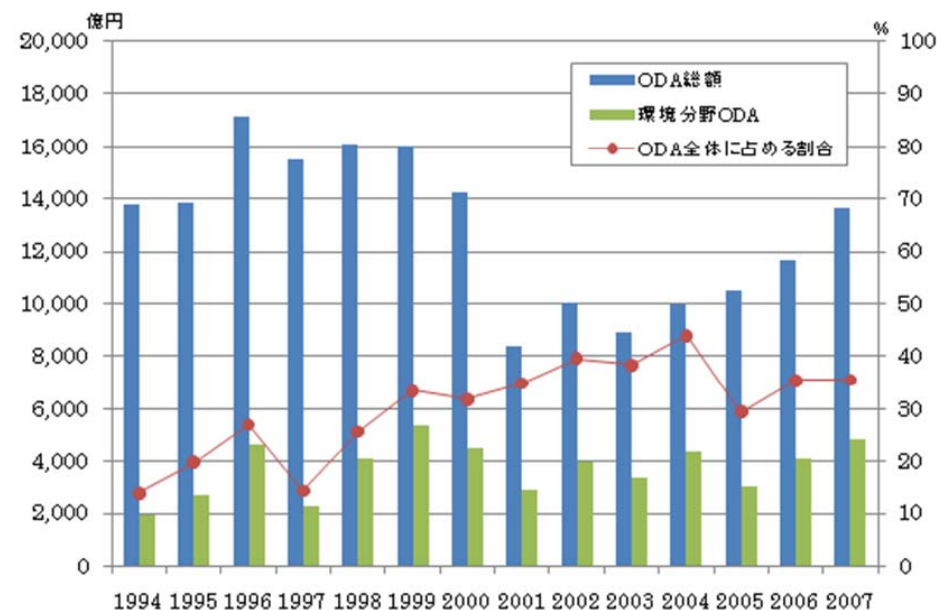
広義の JICA 生物多様性関連プロジェクト数*
*自然環境保全分野を中心に、農業、林業、水産分野等
も含む。



出典：生物多様性保全による貧困削減の実現
JICAの取り組み(JICA 地球環境部)

【参考】

日本の環境分野*における ODA 金額と ODA 全体に占める割合(%)の推移
*環境分野には、居住環境、森林保全、公害対策、防災、地球温暖化対策等を含む。



出典：生物多様性総合評価報告書(ODA 白書 2008 年度版の情報を加えて一部改変)。ODA 総額は環境分野 ODA 額と割合からの計算値。